
そうきたか。

松本 りょう子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
そづきたか。

【Nコード】
N8572L

【作者名】
松本 りょう子

【あらすじ】
二日酔いの僕の部屋の窓を叩いてやってきたものは・・・。

二日酔いで目を覚ました僕の、三階の部屋の窓をコンコンと叩くものがあつた。

「すみませ〜ん。開けてくださ〜い。」

天使だった。

「どうもどうも遅くなっちゃって、最近混み合ってたねえ、どうも。」

「あの．．．．。」

「山田さんでしょ。あ、これね！はい！」

天使は有無を言わず僕に三十センチ角位のダンボールを渡した。

「確かに．．．。山田ですけど．．．。こ、これは．．．なんですか。」

「えっ？何って何よ？天使の輪に決まってるんじゃない。」

大丈夫。これは夢なんだ。昨日呑み過ぎたしなあ．．．。

四軒目は行かなきゃ良かったんだよなあ．．

「ちょっと！何ブツブツ言ってるの！早くハンコ！ハンコ頂戴よ。」

「ハンコ？」

「そうだよ。受け取りのハンコ！知ってるでしょ。あんたいくつで死んだの？全くもう。」

「あの僕は．．。」

「いいから早く！」

そうそう、これは夢なんだ。何でもいいや、ハンコ押して早く帰ってもらおう。

天使は受け取りにハンコを押すと、

「まいどー。」

と、ご機嫌で帰っていった。

天使が帰った後もなかなか夢から覚めないの、僕は窓を閉めてダンボールを開けてみることにした。

するとそこには天使の言った通り、丸い蛍光灯のような天使の輪と「使用上の注意」という冊子が入っていた。僕は冊子を取り出してパラパラと捲ってみたがバカバカしくなってもう一度寝ることにした。

変な夢だ。後で夢占いでもしてみよう。

そして僕が布団に潜り込もうとした時、またコンコンと窓を叩く音がした。

「すみませーん。開けてください。」

また天使だ。仕方なく僕は窓を開けた。

「いやあ、すいませんねえ。私間違えちゃって。」

「はい？」

「お宅山田さんっていうからさあ。」

「それが何か？」

「違うんですよ、もう。四階の山田さんだったの！あなた三階の山田さんでしょう？」

「ええ、まあ・・・。」

「どつりで輪郭が濃いと思いましたよ。あん、早速ですがねさっきの天使の輪返してもらっていいですかね。」

「あ、は、はい。じゃこれ。」

僕がダンボールを渡すと天使はそのまま窓を出て四階へ向かったようだった。

夢だよな……。まあいいや、寝よう。

目が覚めると部屋は薄暗くなっていた。随分寝てしまったな。

その時ピンポンとチャイムが鳴った。まさかさっきの夢みたにまた天使だなんていうんじゃないだろうな。僕は一人クスリと笑って、そしてドアを開けた。

そこには一人の男が立っていた。

「あのお……。四階の山田ですが……。」

「えっ？あ、どうも。」

「すいませんが、先ほど天使が忘れてった『使用上の注意』を返して頂けますかねえ。」

使い方が良く分からなくて、まだ天国に行けないんですよ。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8572l/>

そうきたか。

2010年10月15日20時43分発行